

食べものから考える資本主義経済

平賀緑 hiraga@midori.info (市民社会むけアドレス)

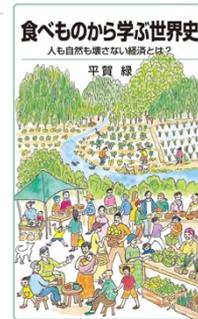
京都橘大学 経済学部 准教授

研究テーマ：食の政治経済学、食と資本主義の歴史

Political Economy of Provisioning Vegetable Oils in Industrial Mass Diet

『食べものから学ぶ世界史 人も自然も壊さない経済とは?』岩波ジュニア新書、2021年

『植物油の政治経済学 大豆と油から考える資本主義的食料システム』昭和堂、2019年



■ 食と資本主義経済の歴史

農村での自給自足的な食生活



都市部の工場で働く労働者の食が「商品」に

植民地や奴隷・労働者を搾取して大量生産（原料、安い食料など）



大量生産＋大量消費

（政府介入、有効需要創出、新商品の開発、海外へ市場開拓）



グローバリゼーション

（市場を求めて世界展開、多国籍企業、貿易自由化、
経済の金融化、公共やデータなど、新たな搾取と市場開拓）

今ココ→ 気候危機、パンデミック、戦争

常に経済成長のため搾
取るフロンティアを
求めて拡張

■ 参考資料・動画

- ナオミ・クラインによる今後への提言（約9分。字幕設定で日本語字幕付きに）

A Message from the Future II: The Years of Repair

<https://www.youtube.com/watch?v=2m8YACFJIMg&t=23s>

- 食と農のデジタル化、および背後のビッグビジネスについて（約10分）

ビッグブラザーがやってくるー私たちの食を襲う見えない脅威（ETCグループ作、日本消費者連盟訳）

<https://www.youtube.com/watch?v=NJd3CaMWxrU>

- カトリーン・マルサル『アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か？ これからの経済と女性の話』

河出書房新社、2021年

- 神野直彦『わかちあいの経済学』岩波新書、2010年

【原稿】

- マチでもムラでも食べられない現状について

平賀緑「持続可能な社会へ 食と農から資本主義を問い直す」日本農民新聞 2022年1月5日号

<https://agripres.co.jp/archives/14219>（全文公開）

- 平賀緑「資本主義的食料システムのカラクリを理解し乗り越える」講演の記事

（PARC 自由学校連続講座での講演を長周新聞が掲載したもの）

<https://www.chosyu-journal.jp/shakai/24743>

- 平賀緑「食から考える現代資本主義社会」連載中！ JA文化連の機関誌『文化連情報』にて

<https://www.bunkaren.or.jp/magazine/>